

にぎわい

—日本海にぎわい・交流海道推進協議会通信—

協議会通信の発行にあたって

会長のあいさつ



当協議会は、北は北海道から南は九州までの日本海側の各地域の方々が一同に会し、港湾を核としたゆるやかな連携を進めるためのサロンの様な場を提供することを目的に、平成7年11月に発足し、平成7年度は新潟市、平成8年度は小樽市、そして、今年度は境港市と毎年総会を実施してきました。

しかし、年1回の総会・シンポジウムだけでは、お互いに十分な情報を交換する機会がどうしても不足しがちです。

そこで、会員全員が、なるべく頻繁に、かつ簡便に情報を交換する手段として、協議会通信「にぎわい」を発行することとなりました。

毎回、各会員から地域連携に関する記事を寄稿いただき、その情報を会員全員で共有することによって、連携の強化を図って行きたいと考えています。

折しも季節は冬を迎え、日本海には荒波がとどろき始めておりますが、この通信による地域間の熱い連携が、冬を乗り越え、地域の振興を盛り立てていく一助となることを祈念して、協議会通信創刊の御挨拶とさせていただきます。

(協議会 会長 新潟市長 長谷川義明)

第一港湾建設局局長のあいさつ



日本列島を縦断する山脈は、我が国に日本海側と太平洋側という二つの特徴ある地域を形成した。

かつての、農耕経済主体の時代には、経済活動が年周期で行われ、積雪という天然の貯水や内航海運に有利な夏の静穏な海など日本海側の特性が極めて有利に働いていた。陸上交通を阻む急峻な山脈も天然の要害として地域の安定に寄与していた。

近代の工業化は、通年の安定した経済活動を必要とし、積雪や冬季の風浪という日本海側の特性が不利に逆転した。中央集権化と陸上交通の発達の中で山脈は日本海側と中央との連絡の障害でしかなかった。国際関係を見ても、我が国の対外関係は大陸から欧米へ重心が移動し、戦後の冷戦構造もあって、かつて日本海の繁栄をもたらした対岸交流も活気を失わざるを得なかった。(次ページに続く)

近年、情報・交通インフラ整備等により日本海側地域は太平洋側のと経済環境の格差を縮めつつある。また、冷戦構造の崩壊が日本海を対岸交流の海として蘇らせようとしている。大都市圏の抱える都市問題の顕在化と価値観の多様化から、人々は大都市指向一辺倒から脱却しつつある。しかしながら、一方において高齢化など地域の抱える共有の課題があることも現実である。

日本海沿岸の港町が、共通の財産である日本海を、内外交流の場として親しみ、活用して新たな日本海時代を形成する。港づくりを担当する私共港湾建設局も、会員各位と心をつなげて、この目的に取り組んでいる。

この「にぎわい」の創刊により、「日本海にぎわい・交流海道推進協議会」が更に発展することをお祈り申し上げ、創刊のお祝いの挨拶といたします。

(第一港湾建設局長 荘司喜博)

お知らせ

平成10年度 総会開催地について

平成10年度の協議会総会の開催地について、報告が遅れまして、会員皆様方には大変ご迷惑を掛けております。

平成10年度の総会を7月～8月頃に富山県で開催することで調整を進めていますので、会員皆様方の対応方よろしくお願い致します。

なお、詳細な開催時期・開催場所等につきましては、決定次第にこの通信でお知らせ致します。

(第一港湾建設局 企画課 中西)

『行事カレンダー』の掲示内容募集

平成9年度総会時の提案に基づき、港における市民活動等を一般にアピールするため、平成10年度行事カレンダー(仮称)を作成します。各会員及び建設局の原稿を募集いたします。原稿募集要領は下記のとおりです。

成果物は1枚物のポスターに仕上げ、会員に配布し、市民の見えるところに掲示いただきたくことを予定しています。発行の時期は、平成10年度の「海の日」までには発行できるようにと考えております。印刷費は平成10年度予算に計上することを提案させていただきたく予定です。

多数の御応募をお待ちしております。

記

1. 対象行事

(1) 港や海に関連した市民活動。自治体や建設局等が主催する市民参加型活動を含む。例えば、海岸清掃ボランティアや、「〇〇みなと市民会議」等。

(2) 港や海に関連した祭り。「〇〇みなと祭り」等。

2. 原稿記載要領

(1) 名称 (2) 開催時期 (3) 開催場所 (4) 内容紹介(60字以内)

(5) 写真、イラスト等

3. 期限

(1) 各会員自治体は、平成10年3月14日(金)までに各建設局へ提出。

(2) 各建設局は、自局提出分と合わせ、平成10年3月21日(金)までに一建へ提出。

(第一港湾建設局 企画課 中西)

編集後記

日本海側には独自の気候、文化、風土があります。そして、日本海沿岸の港町は、かつての北前船や対岸交流という華やかな歴史を共有しています。日本海沿岸の港町が、このような共通する基盤に立って、連携・交流しながら地域を活性化させようと結成された「日本海にぎわい・交流海道推進協議会」です。

しかし、限られた担当者が、たまに来る事務文書を扱い、或いは年に一度の会議に参加するだけでは、協議会が看板に掲げる「にぎわい」と「交流」にはほど遠いものになってしまうのではないかと。協議会の活動をより実りあるものとするためには、何よりもまず、情報の共有と発信による結束力強化と存在感強化が必要ではないかと。

そんな問題意識から、「にぎわいー日本海にぎわい・交流海道推進協議会通信ー」を創刊することといたしました。

各会員が、通信をただ受け取り、ただ読むのではなく、気楽に投稿してもらい、全員参加の実現と、頻度を重視することにより推進協議会活動そのものを日常的話題に昇華させることを目指して、「にぎわい」は極力簡素な形態にしました。

この「にぎわい」が号を重ね、日本海の港町が情報の「にぎわい」に満たされることを祈念し、皆様のご愛読と、積極的なご投稿をお願い申し上げます。

(創刊号 編集長 宮本卓次郎)



編集

日本海にぎわい・交流海道推進協議会事務局

第一港湾建設局 企画課内 TEL 025-265-7781

FAX 025-230-3680